

福岡県宗像市

2023年10月～
2024年1月

宗像大社では12月の古式祭の神事では、八朔の花粉親である「九年母」が使われています。

福岡県福岡市東区箱崎

2022年2月～
継続中

毛利元就の三男で三原の武将・小早川隆景は、村上海賊と手を組み、九州へと向かいます。村上海賊が立ち寄ったところに、柑橘が必ずというほど栽培されていました。これは偶然でしょうか。現在調査中です。

和歌山県紀の川市

2022年2月～
継続中

村上海賊と和歌山の雑賀衆は、深い親交がありました。因島から和歌山へ八朔が贈られ、そのお礼として和歌山からは除虫菊が贈られたのです。時代を超えて因島と和歌山は親交があったのですね。

山口県萩市

2024年
2月～

萩市における夏蜜柑と九年母についてのシンポジウムへ参加しました。萩市は毛利家ゆかりの地です。その毛利の三男・小早川隆景と因島村上との繋がり深く、山口における九年母と柑橘の展開についての関係性についての調査を、継続した撮影取材として敢行しています。

広島県東広島市

2022年1月

ウイルスの免疫を持っている「ハッサク55号」。広島県立総合技術研究所の農業技術センターで大切にされています。

八朔の

TRACING THE ORIGINS

“ブルー”を

たどる

OF HASSAKU

普及講演活動

高知県宿毛市

2023年12月～
2024年2月

田熊で発見され、田中長三郎博士により「田熊スタチ」と命名された柑橘があります。現在その木は宿毛市にて植樹され、直七と言う名で商品化されています。宿毛における田熊スタチの継続した撮影取材を開始しました。

田熊スタチの調査に行きました

撮影取材活動

HASSAKU HISTORICAL ROMANCE

八朔歴史ロマンス

広報誌

vol.1

2024年4月発行

八朔と柑橘にまつわる
歴史の中から掘り出す
ヒューマニズムな物語

因島のほぼ中央に位置する青影山の麓には、ジャガタと呼ばれた雑柑が、たくさん自然実生していました。そこは因島田熊・密厳浄土寺の寺領で、江戸時代末頃に第15世住職・小江恵徳上人が、その中で優れた柑橘を発見したことから、物語は始まります。恵徳上人が【八朔】と命名し、明治時代には世界屈指の2人の農学博士が、因島を訪れた際に八朔の優秀性を認めたことで、八朔栽培への機運が高まっています。昭和の時代には、田中清兵衛氏と有志達の尽力によって、全国へ普及していきました。更に田熊では安政柑や田熊スタチと命名される自然実生の柑橘が発見されます。

八朔には
深～い話しが
あったのです。

種子親 × 花粉親 = 自然実生

サボン × 九年母 = 八朔

国立国会図書館

MATERIAL COLLECTION ACTIVITIES

収蔵書データベース化

国立国会図書館にて収蔵されている中で、入手不可能な柑橘に関する、古文書・論文・文献等について、デジタルデータを入力・出力及び編纂作業に入っています。A4用紙の片面出力約15,000頁・A3用紙片面出力約4,200頁です。

八朔ゆかりの会

八朔の歴史を明らかにしていくために、「資料収集」・「歴史調査」・「時代考証」・「取材及び撮影」を続けています。様々な資料から推測したことへの歴史的立証を確実にを行うため、専門家の方を交えて、「推測」と「史実」を分けた上で、まだ明らかにされていない八朔の歴史浪漫を深めて参ります。

【主な活動内容】

毎年2月1日の八朔地蔵加持力法要開催

商工会議所、加工協会、JA、県内外産地と連携した八朔のPR

八朔関連文献の調査および研究、資料収集、アーカイブス化

八朔ゆかりの会
ホームページ
QRコード

すごいぞ！
八朔

広報誌『HASSAKU HISTORICAL ROMANCE(八朔歴史ロマンス)vol.1』／発行日：2024年4月20日／発行：八朔ゆかりの会 会長 田中康貴
事務局：JA広島果実連東京支所 〒143-0001 東京都大田区東海3丁目2番1号 大田市場日園連内／TEL(03)5492-5434 FAX(03)5492-5449

八朔ゆかりの会

八朔地蔵 HASSAKU JIZOU KAJIRIKI HOYOU 加持力法要



八朔ゆかりの会
会長 田中康貴
(大信産業株式会社 会長)



祝 辞
尾道市農業協同組合
組合長 丹下和博様



役員一同、心新たに八朔産業のさらなる発展を願います。
はっさくくんも御祈願に来てくれました！

顧問就任のご挨拶



岡野由香さん



宮地剛さん

「里帰り八朔」と題して、各地の八朔ゆかりの地より祭壇にお供えをして法要致します。その後は、ご加護の御裾分けとして各施設、各団体へお届け致します。

八朔を一次産業の一つの柑橘としてみる見方と、幾重にも折り重なった歴史の中で自然実生した、大自然と先人からの贈り物としてみる見方の共存で「八朔ゆかりの会」が誕生致しました。



八朔を全国への普及に尽力した「田中清兵衛」氏と、32年間で毎月柑橘についての冊子を発行し続けた、月刊柑橘誌『たちばな』の著者「岡野周蔵」氏。そして支えてきた田熊の先人たちが、願いを込めて全国へ発信をしていった“田熊ブランド”である柑橘の足跡をたどりながら、感謝の意を込めて法要と勉強会を、毎年2月1日(旧暦の初朔日)その日と決めて、地域の方たちと共に執り行っています。



法要の時の客殿での様子。大型モニターに法要の映像を映します。



お供えの八朔と願いを込めたご祈禱札を持って祭壇にお供えをして一年の豊作をお祈りします。



当日お手伝いをして下さった裏方の方達の様子。



裏方の方たちとはっさくんで緒に記念写真を撮りました。



令和6年(2024)2月1日 法要後の記念写真



月刊柑橘誌『たちばな』
A5版／毎号30～40頁
昭11年(1936)～昭43年
(1968)毎月発行。写真は
昭15年(1940)8月発行
の表紙で第5巻第8号。



当会にて現在保有出来ている『たちばな』
(創刊号～1964年)

約32年もの間
戦時中の約4年間を除き毎月発行
380号分、およそ11,600頁

『たちばな』は、柑橘分類学で世界的権威の農学博士・田中長三郎氏を始め柑橘界の研究者たちとのつながりの中で、国内の様々な研究者たちの論文の寄稿と、岡野氏の観察と行動力、そして支えた田熊の方たちの熱意も強く、長年刊行され続けました。広島県の発行する『広島県農業発達史』にも『たちばな』より抜粋と記載されているところが多くあることから、柑橘農家にとっても重要な情報源だったということが読み取れます。八朔ゆかりの会では、『たちばな』全巻をデジタルデータベース化して閲覧可能に出来るように作業に入っています。



田熊産柑橘が北米輸出に向けて港で船積みを待つ様子



密蔵浄土寺の横にある柑橘園にて。写真の後方に、密蔵浄土寺のお堂の屋根が見えます

八朔の親とも言われ、私財もつぎ込み、若者の育成と八朔の全国普及に努められました。その献身的なまでの努力は、田熊だけではなく因島の若者たちの先導的立場で、柑橘の新しい在り方を開拓したのです。その人望は厚く、今もその人柄は語り継がれています。



清兵衛氏は、母校である広島県立西条農業高等学校の学生たちへ、農業実習として、自身の所有する柑橘畑を提供し、後進の育成に励んでいました。学生たちと寝食を共にする写真も残されています。



晩年の清兵衛氏



昭和8年頃に清兵衛氏が手掛けた蜜柑缶詰のラベル

デジタルアーカイブ DIGITAL ARCHIVE 史料編纂と未来へのバトン